

射のため、之れに接續する保育室内まで熱くする。

況んや其の焦げるような表面で、ゆつくりとした遊びは出来ない。覆をつくれれば多少之れを免れ得るとしても、全國に涉つて日覆をつくることは困難でもあり、又そんな餘計なことを要するのが即ち一つの缺點である。

(五六)、殊に吾人の最も不適當とするは、四季のうつり變りが何等の自然的情景を添へぬことである。春が來たとて若草一つ芽を出さぬ。夏草の繁りもない。秋の落葉もなく。ぬく／＼とした冬の日和の面白味もない。折角の土壤に蓋をして、大げさに言へば、軟かいマザーランドと幼児との間をこんな固いもので隔て、仕舞ふのが惜しいのである。こんな幼い時から、左様な非自然的な、無趣味な、見るからにしかつめらしい處へゆかなければ教育が受けられないのであらうか。

幼稚園にアスファルト敷きは、どう考へても賛成が出来ないのである。

「初夏の頃」より

若き父

毎晩夕刊が來ると坊やは玄關に飛んで出て其場ですぐ新聞を繰り擴げ乍ら、自分に興味ある朝刊以後の出來事的發展を豫測したり、或は挿畫や寫眞版に依て、何か新しい事件の發生を推定したりする。例へば「東京市に於けるベストの傳染染統論」であるとか、所澤に於ける重松中尉墜落の顛末」とか「代々木葬場殿に於ける土木工事進捗の程度」とかは此の二三日來坊やに取て最も興味ある時事問題である。

いくら想像力が偉大でも、玄關で繰り擴げた新聞を一寸覗んだ丈では素より事件の真相が坊やに知れやう筈がない。眉の間と口の周圍に探究心と不平との筋肉を幾度か伸縮させて居た坊やは、忽ちかけ出しに來て其新聞を兩親に突き付けて多量な矢繼ぎ早なしかもくどい質問を浴せかける。

抑々兩親の答辯振は。議會に於ける大臣や政府委員の答辯の立場とは違ふ。第一に反問を報いる事を避けなければならぬ、第二に問題を不得要領化して質問の圈外に脱却する事が出來ぬ、第三に概括的抽象的に問題を締め括る事が出來ぬ。かくして該當事件の個々の變化を極めて具體的直觀的に説明して行くと共に、全體の過程が歪な保つやうに部分を整理して、しかも實行上の何等かの規範を示すやうな結論を作つてやらなければならぬ。

二人の熱心なる答辯者が代る／＼此の難問題の衝に當て奮闘したのは勿論の事であるが最も困難を極めたのはベスト箇の説明であつた。併し漸次に委曲を盡して説き來つて、やがて問題が開展して風の殖民となり蚤の跳躍となるに及んではやがたしかに之はお伽噺以上だぞ」と云ふやうに坊やは眼を光らせ頬を赤くして跳り上つて喜んでそれから／＼と先きを聽く。